

小山市民の1日の動き

2018年 小山市パーソントリップ調査 結果概要

20年前と比べてみよう



今後の人口減少・超高齢社会を見据え、誰もが移動しやすいまちの実現に向けた小山市の将来の交通計画を検討するため、小山市にお住まいの方を対象に「人の動き」の実態を把握する調査を実施しました。その調査結果の概要をお知らせします。

パーソントリップ調査とは

「どのような人が」「どのような目的で」「どこからどこへ」「どのような交通手段で」移動したかなどを調べるものです。



調査方法

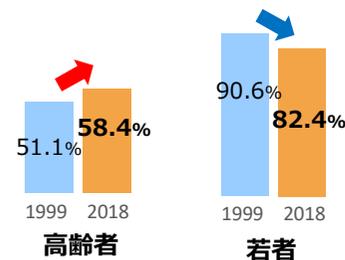
- ・サンプル数：6,525世帯、14,625人
- ・調査方法：住民基本台帳から無作為に抽出した世帯に調査票を郵送。郵送もしくはウェブサイトにて回収。
- ・調査対象日：2018年10月の平日

結果の分析は、6,525世帯、14,625人の回答をもとに小山市にお住まいのすべての人の動きとなるよう拡大・集計し、また、1999年に実施した小山栃木都市圏パーソントリップ調査より、小山市にお住まいの方のデータを抽出・再集計して比較しました。

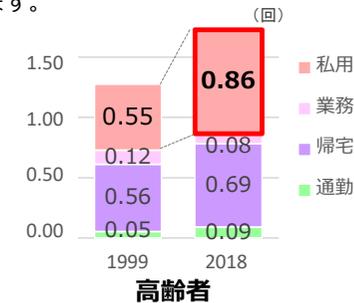
世代による違い

※世代の分け方 子供：5歳～14歳、若者：15歳～24歳、高齢者：65歳以上

65歳以上の高齢者の外出率は増加していますが、依然として二人に一人は外出していません。一方で、15歳～24歳の若者の外出率は減少しています。

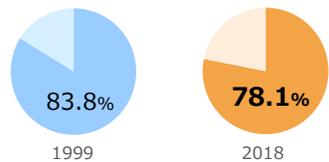


高齢者の1日あたりの移動回数は約0.5回/日増加しており、私用目的での移動が他の目的と比べて増加しています。

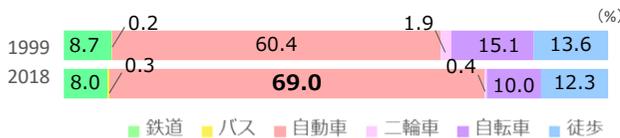


小山市民の動き

外出率は減少しています。



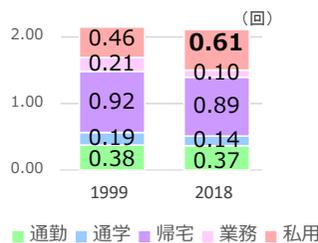
移動手段は自動車の利用割合が増加し、約7割を占めています。



1日あたりの移動回数は大差は見られません。



移動の目的は私用目的の移動回数が増加しています。



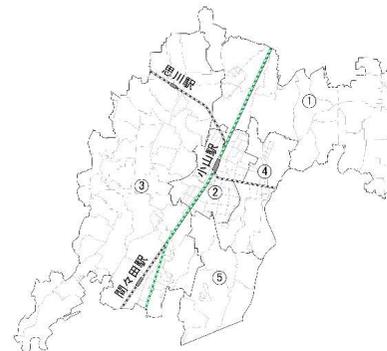
他の地方都市との違い

小山市の移動手段の構成は他の地方都市*と概ね同様ですが、他の地方都市と比べて鉄道・自動車での移動がやや多い傾向にあります。



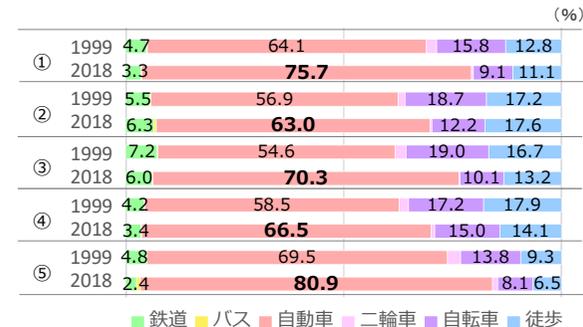
※2015年全国都市交通特性調査の対象都市のうち、小山市と人口規模が同程度の都市類型である「地方中核都市圏中心都市(人口40万人未満)(対象都市：弘前市、盛岡市、郡山市、松江市、徳島市、高知市)」と小山市のデータを比較。

地区による違い



自動車の利用割合は、小山駅周辺も含め5地区全てにおいて増加し、6割以上を占めています。

各地区の概況	
① 桑・絹地区	農地や工業団地・産業系大規模施設が多く立地。
② 小山駅周辺地区	小山市役所などがある中心市街地。大学・商業施設が立地。市街地再開発事業が進行中。
③ 小山西地区	都市的土地利用と自然的土地利用が混在。
④ 大谷北・小山工業団地地区	大規模商業施設や小山高専、小山東ニュータウンが立地。小山工業団地が立地。
⑤ 大谷南地区	市街化調整区域が大半で、農地が多い。



約20年間で小山市民の移動が大きく変わりました。これらの結果をさらに分析し、人口減少・高齢化の進展や地球環境への取組、ライフスタイル・働き方の変化、情報通信技術などの急速な技術革新など、社会状況に対応した将来の交通のあり方について計画を策定してまいります。

(担当課) 都市計画課 TEL 0285-22-9230